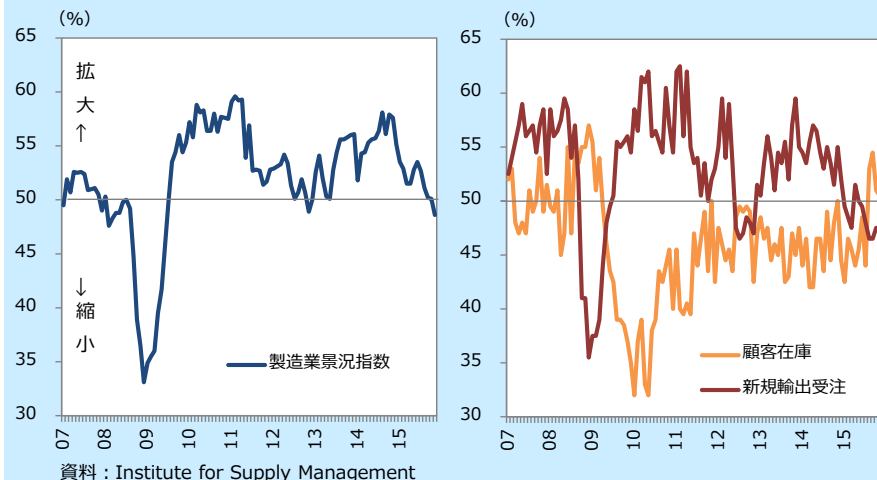


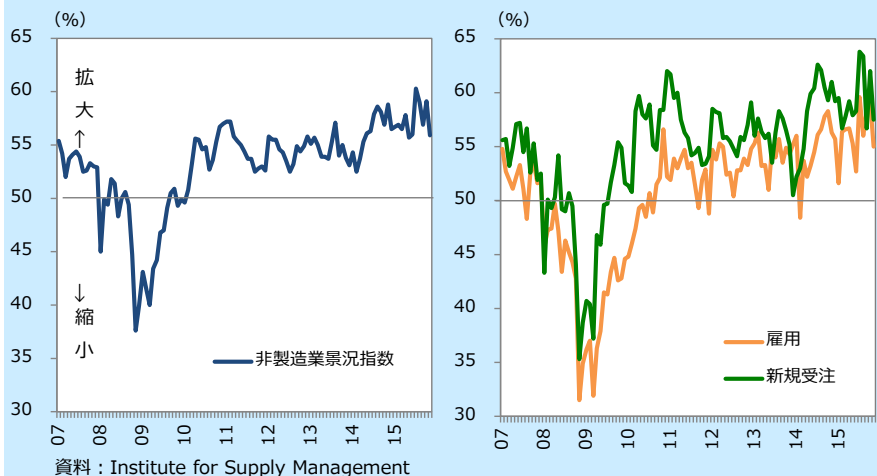
米国：ISM景況指数（2015年11月） —3年ぶりに50を割り込んだ製造業の景況感指数—

MRI Daily Economic Points December 4, 2015

図表1 ISM 製造業景況指数



図表2 ISM 非製造業景況指数



評価ポイント

今回の結果

- 15年11月のISM製造業景況指数(米供給管理協会、12月1日公表)は、48.6と5ヶ月連続で低下。拡大と縮小の境目となる50を3年ぶりに下回り、水準としては09年6月以来の低さとなった。
- 同指数を構成する5指標のうち、3指標が低下。新規受注が48.9、生産も49.2といずれも50を割り込み、12年8月以来の低水準となった。一方、雇用は51.3と5ヶ月ぶりに上昇した。
- また、同指数構成外の項目ではあるが、ドル高や新興国経済の減速により、新規輸出受注の低迷が続いているほか、価格や受注残の指数も低水準にある。顧客在庫も引き続き50を上回って推移しており、リーマンショック期に並ぶ在庫積み上がり状況にある。
- 15年11月のISM非製造業景況指数(米供給管理協会、12月3日公表)は、55.9と前月(59.1)から低下。高水準を維持していることには変わりはないものの、14年半ば以降は均せば横ばい圏内となっている。
- 同指数を構成する4指標のうち、企業活動と新規受注、雇用が低下した。新規受注は鉱業や卸売業など資源安の影響を受けやすい業種を中心に悪化している。

基調判断と今後の流れ

- 製造業の景況感は、ドル高や新興国経済の減速などを背景に悪化傾向にある。非製造業の景況感は、高い水準を維持しているものの、資源安の波及などから横ばい圏内での推移にとどまっている。
- 製造業の悪化をどの程度深刻にとらえるべきか。米国経済における製造業のシェアを確認すると、GDPでは12%、雇用者数では9%であり、いずれも長期的には低下傾向にある。
- 雇用・所得環境の改善を背景に非製造業が好調を維持している間は、製造業の悪化について過度に悲観する必要はないものの、中国経済や資源国経済が一段と下振れにより、鉱業、運輸・卸売業をはじめ非製造業の景況感にも徐々に波及するリスクには注意が必要である。